

## One team

2019年にラグビーのワールドカップが日本で開催され、初めてベスト8まで進出できたことでのわかにラグビーブームが巻き起りました。そして、日本チームの頑張りは、one team によるものだというので、2019年の流行語大賞にも選ばれたことは、まだ皆様にも記憶に新しいことと思います。

スポーツの場合、ラグビーやサッカーのような団体競技に限らず、テニスや柔道のような個人競技においても、選手を支える team の力が不可欠であることは、種々のドキュメンタリー番組からも教えられるところです。

企業や研究機関における技術開発や研究においても、個人で実施する場合と組織で team として取り組む場合と2つあるかと思いますが、大学における研究に限って言いますと、どちらもありで、どちらも必要と筆者は考えています。ただ、人によっては、研究は個人のアイデアや理論に基づいて実施するものあって、共同研究の成果を team で共有するのは困難がともなう、ということで、team での取り組みを嫌う方も居られるようです。

ただ、世の中の仕組みが複雑になり、困難な事態に直面して来ますと、ことはそれほど簡単ではないように思えます。最近のコロナウイルスがその最たるものでしょう。医学を中心とした世界中の研究者が原因の究明やそれに基づく治療薬やワクチンの開発に日夜勤しんでいるにもかかわらず、ウイルスの猛威はまだ終息に至っておらず、むしろそのような努力をあざ笑うように、ウイルスは変異を続けています。筆者には、これは、霊長類と自任してきた人類が、おごり高ぶり、自由と便利さを享受してきた付けが廻ってきたような気がしています。その意味では、地球温暖化とも共通しているようにも思えます。

人類はこれまでに多くの過ちを繰返してきましたが、逆に多くの困難も克服してきました。人類は、team の英知の結集で、きっとこの困難を克服していくことではあると思いますが、障害は政治（家）ではないかと危惧します。この困難を克服する英知を結集できる傑出した人材が今の世界を見渡しても、見当たらないことが最も危惧されることです。その意味で、われわれは、有史以来最も困難な時代に直面しているのかもしれない。

翻って、LRRIも初年度を無事乗り切れたのは偏に会員諸氏の team 力によるものです。**“誠実”**な業務遂行を以って**“信頼”**を構築し**“尊敬”**を勝ち得ることを胸に、今後も one team の力が一層発揮できる新しい組織を目指した活動を継続したいと思っています。

“ウイルスに 出口の見えぬ 暗闇も  
ワンチームこそが その突破口“  
代表理事 安原一哉  
(令和3年7月21日)